時事新報

二十三年の博覧會

近來世上には共進會品評會の流行甚しくして大なるものは府縣を聯合し小なるものも郡區町村を共同して此會を開くみと各地皆然らざるなきの形状なるが共全國を一轄して宏大の博覧會を催はれたるは今日まで僅か兩回のみなり即ち明治十年の第一回内國勸業博覧會を始めとして明治十四年に其第二回を開き後ち十八年に第三回開設の都合なりしも明治二十二年に延期したるに本年一月の閣令を以て更に尚ほ一箇年を猶豫し彌く來る二十三年の四月一日より七月三十一日まで東京上野公園に於て開會の旨に決し政府に於ても既に掛官を撰任し現今は出品會場に關する諸規則手續の調査中なりと聞けり二十三年博覧會の其期限は今後僅かに三年を餘さに過ぎざれば民間の人々も各自之に出品せんと欲するものは今日より預め其用意に着手し陳列の貨物をまて徒に珍奇絶倫の一方に奔らしめず商賣利益實用の點に於て其販賣を弘むるの工風必要なりと云ふ可きなり明治十四年第二回の博覧會あるに當りては當時の論者中には之を以て明治十年第一回の會に比し著しき進歩の功も顯はれずとして非議したる者少からざりしと雖も二十三年の第三回博覧會は第二回の開會以來殆んど十年の星霜を經て今日に至るまで全國殖産の道も一般に發達したることなれば今回の開會は十四年に比して又相變らず進歩のあとも顯はさずと云ふが如きの非難はなからんなれ共世人が博覧會を以て珍器奇物の展覽場なりとするの誤は未だ全く消滅したるに非ざれば斯る臭氣の脱せざる間は縱令へ幾回の博覧會を開設するも殖産興業の道に望む所甚だ少なし出品人の用意は特に此邊に於て大切なる可し

次に我輩の望む所は内國と云ふ狹隘の區域を弘め一般外國人の出品をも促して之を内外博覧會の組織に改むるに在るなり抑も嘉永開國以來我日本の外國交際は既に三十年の星霜を經過して共間に通商貿易の額も年々に増加し共輸出入八千萬圓の多きに達したれば西洋諸國も今は日本を視るに東洋商賣上の與國なることを以てして尙ほ將來にも望を屬するに相違なかる可し此際日本に於て萬國大博覧會を開き世界各國の商品貨物を聚めたらば其效驗獨り日本人民の知見を啓くに止まらず彼我貿易の道を新開して大に利益する所あるべしとは我輩の持論にして嘗て紙上に鄙見を陳べたることもあり二十三年の博覧會こそ屈強の機會なれ之を内國限りとするも又内外打交せとするも五十歩百歩の相違なれば少く共規模を大にして外國人にも隨意に出品を許し一應日本の通商與國に其旨を通知したらば現在日本れ貿易に利害關係を有する西洋商人等が悦んで出品すべきは勿論將來日本の商賣に着手せんと欲する者も亦我招きに應ずることなる可し故に今日の策を爲さに改めて萬國大博覧會と云ふが如き特名を附して新たに開設を爲すに及ばず二十三年の博覧會を其儘に使用して手續にて事を處するを足れりとす可し此の如く博覧會に内外の區別を立てず日本國より出るもの又入るものに論なく總て殖産興業利益商賣に關係する一切の物品を網羅して會場に陳列すると又之に反對して出品れ貨物を獨り内國の産に止めて外國品の場に上ぼるを禁ずるとにて産業振起の目的を達するに於て孰れが利益多かるべきや我輩は内外博覧會を以て共効驗遙に内國博覧會の上に在りと信ずるものなり或は内國博覧會の目的は唯單純に内國の物産を進歩せしむるまでの方便にて内外博覧會とは其趣を殊にするものありと云ふ人もあらんかなれども現今宇内共同の世の中に在りながら是れは内、彼れは外と強て内外の區別を立つるも實際何等の利益あるべきや覺束なき次第と云ふべし政治上國交際の事に至りては今日に於ても内外の區別論甚だ面倒なれ共殖産興業の門に入りては斯る區別なきのみならず共區域範圍の多々倍々廣からんことを願はざる可らず歐米諸國に於て近時頻りに博覧會の催あれ共孰れも出品の範圍を狹隘にせず内外各國より隨意に其物品を出さしめ、此れは内國の博覧會又彼れは萬國の博覧會と故さらに共別を附さざるものは殆んど聞かざる所なり是に由て之を觀れば日本内國の博覧會も特別の事情あるに非ざれば内外の區別を廢して共規模を大にするを得策なりとせざる可らず二十三年の博覧會を迎へんとする官民の輿論果してこれに不同意なきか我輩の聞かんと欲する所なり

博覧會内外の區別論は暫く擱き總じて斯る種類の事業は人民の手に任せて自由に之を經營せしむべきと自然の條理にして時に政府の保護獎勵を要する事情あるに非ずと雖も夫れは唯會の發起者に便利を與ふるまでの方便にして或は官邊の人の之に與ふるともあらんなれ共其人は決して官の資格を以てするに非ずたゞ私の身分より加盟するものなる可し西洋諸國の博覧會は比々皆然るものにして偶時共會の總裁に皇族親王などを仰ぐ所以も王室は社會の標準公衆れ供膽する所のものたるが故のみ日本に於て第一第二兩回れ博覧會は是迄人民に經驗なき事情もありて全く官の經營に成りたるい已むを得ざる次第なれ共今日に至りては民間の進歩既に前日の比に非ざれば二十三年の博覧會も人民の手に任せ聊かも差支なかるべしと思はるゝあり聞く所に據れば民間の有志者中此事を計畫して出願に及びたるものありと云へり我輩は必ずしも此人々に限り博覧會の事業を委任すべしと云ふにあらざれ共政府が之を機會として放任主義を實行せられんと偏に希望に堪へざるなり

官報

○宮内省達第五號　華族一般

自今地方ニ就キ産業ニ從事シ或ハ家計ヲ維持スルノ目的ヲ以テ各府縣並北海道ヘ移住セントスルモノハ其事情ヲ具シ貫屬換願出ヘシ其目的至當ト認ムルモノハ聞屆クヘシ

明治二十年十月十五日　宮内大臣子爵土方久元

（本年十月十五日官報）

雑報

○獨逸の首相　ビスマルク公は一層貿易を盛大ならしめんが爲め自ら商務卿を兼ね屬邦に訓令して諸會社を合併し共勢力を強大ならしめんと計畫し居れりと云ふ

○開廷日の改定　東京輕罪、始審兩裁判所にては今度各裁判官の分擔開廷日を左の如く改定したり

輕罪裁判所第一課は(月水金)内藤判事、大村判事、黒田判事試補(火木土)伊地知判事、田原判事、第二課は(月水金)三浦判事、中谷判事(火木土)柴田判事、木村判事試補○始審裁判所第一課は(月水金)藤田判事、世良田判事、伊東判事、松本判事試補(火木土)馬場判事、齋藤判事試補、第二課は(月水金)柳田判事、山田判事、高橋判事試補(火木土)茂手木判事、戸水判事

○京都の共進會　京都大坂及び東は三重縣西は山口縣南は和歌山縣北は石川縣まで二府十六縣聯合しある織物外九品の共進會は多分京都博覧會場に開設するならんとのことなり

○慰勞者の取調　此程清國上海に於てコレラ病の流行に際し同地在留の我領事館詰の諸氏其他寄留者にて豫防等に盡力せし者へ慰勞金下賜の義と同領事より其筋へ照會ありしに付き共筋よりは右の人名等を詳細報告すべしとの趣を通達しるよし

○本郷區新道工事　本郷區の地たる形状恰も鯨背の如く東西南北峻坂にして通運の便利甚宜からず百般の事業上妨害少からざれば過般同區長北澤正誠氏は新道開鑿の計畫を起し先づ本郷四丁目大通り廿二番地より丸山本妙寺前まで延長百廿八間幅四間れ道路を新開し菊坂町一番地に接續せんとて右の工事を第一着となし更に其方針を進めて菊坂町在來の道路に沿ひ北側二間通りを道敷に組入れ又田町より小石川區境の鶯橋に至る道路をも改修なし新設道路通計七町三十八間全區れ東西を一串し東は本郷四丁目大通に出で同三丁目四ッ角に連絡し左は上野右は萬世橋に達し西の方水道橋に至り夫れより中山道巣鴨の新道に接し延長三十餘町平坦なる新道を開き往來運輸の便を與ふると共に消防避難等の不都合をもなからしめんと企て差向き前條の道路新開に着手せんことを請ひなに府廳は常置委員の決議を經て聞屆けたるより同區内の地主松南宏雄氏は率先して千圓餘に値する地所二百五十八坪と江澤松五郎氏は三百圓餘に値する地所四十四坪を飯嶋朝三氏は七十五圓の地所七十二坪、加藤照業氏は二百五十餘圓の地所五十餘坪を寄附し其他十餘人獻地のことを申出で又立川綾部二氏は各金百圓宛外四十餘名の寄附金あり殊に小石川柳町水野佐助氏は巣鴨新道に接續するを喜び若干圓と寄附したるもありて合計殆んど三千圓に及びたれば北澤氏は此程四丁目谷通人家引拂を達し其工事を急ぎ居る由なり

○猶太人の迎禮　墺國皇帝が過般匈牙利地方を巡幸ありたるに衆民は歡喜之と迎へ有志名族は謁見と許されたり而して共節今日歐洲諸國にて恰も我國の穢多の如く世人に輕蔑嫌惡せらるゝ猶太人一名同族の總代として出で迎へたるに皇帝は公道は何れの人種何れの宗教をも偏視するを許さずとて慇懃に右總代の迎禮を受けられたりと云ふ

○美術取調　文部省雇米國人フェノロサ氏幷に圖畫取調掛岡倉覺三氏は圖畫取調の爲め先に歐米各國を巡廻して去る十二日歸朝し以後は美術學校創立事務を擔任するよしなり

○大坂に於ける十錢　大坂の該紙幣引換所は日本銀行大坂支店、三井銀行大坂支店、第五國立銀行大坂支店の三箇所あるが去る七月一日より九月三十日まで三店の引換額は三十九萬千四百二十圓六十錢にて最早大概引換濟となりたるにや昨今は引替を申出づる者一人もなしといへり

○東京の阿片　東京にては近頃阿片の培養を試みたるに思の外好結果を奏したるを以て手廣く之を耕作する都合ありと或る外國新聞に見えたり

○大坂鐵工所　同所にて目下製造の汽船中琉球藩主の持船琉陽丸は今二週間にて落成し直ちに琉球大坂間を航海する由又今度新たに設立したる德島汽船會社の持船は長さ百八尺幅十五
速力十英里にて當月中
航海する由次に大津丸
骨の据付々と終りたる
成る由なり又た大坂
十艘は何れも其長さ四
り大坂商船會社の三
米會社の汽船は構造の
ものと同樣にて來年二
社の汽船は長さ百二尺
にて今後六箇月間内に
同工場の模樣は職工五
造場、鍛冶場、器械場、
に船渠一箇所等にて昨
工場に相對ある南安
と爲す筈なれども猶は
工場地と買入れんと目

○山梨縣下の蠶業　山
烟草等よりも蠶業の方
增加するのとなるが
二百餘戸にして七分通
金高は殆んど一萬圓に
衛氏は屈指の養蠶熱心
し目下蠶室新築中ある
階造りにて第一室幷び
を立廻し空氣の變動如
なりとぞ

○北安治川回漕會社　同
餘艘を以て東京大坂間の
前艙にては時として荷
り今度三四艘の汽船を以
ありと

○紀州ネル　同品は昨
高きに昇りしも今年は
は本年産出の豫算額昨年
なり何故に斯る衰況と
を製造して大失敗と取
もの多きに依るよし就て
が大坂備後町に設立せる
度より同品製造に一層の
の信用を失はざらん樣
て等級を附し一切同會社
中なりと云ふ

○大坂府下の洋服商　大
八戸、同中等卅戸、同下
長節の前に至り大坂府知
招き一大夜會を催はし出
用と案内状に附記されたれ
も俄かに之を仕立る杯に
今年三月聖上の御臨幸に
より洋服商大に增加して
等百六十六戸程に及びし
に比ぶれば何れも三分一
冬服を當込みて買入れ
今は其目算打ち違ふて持
服職工は凡ろ三百名計り
外もあり上等職工の月給
圓、下等十圓より八九圓

來十八日ニ於テ臨時入學試驗ヲ行ヒ本科受驗科別科共ニ入學ヲ許ス
但本科ニ限リ以後入學ヲ謝絶ス
十月　神田仲猿樂町二番地
私立 日本英學館

小生義一昨日米國ヨリ歸朝致候ニ付左ニ止宿致居候間此段舊友原知ニ告グ
十月十三日　京橋區丸屋町 佐々部濟方
三原繁吉

小生儀自今左ノ所ニ於テ代言辨護鑑定ノ依賴ニ應ズ
日本橋區本町一丁目六番地
大谷木代言事務所出張

永崎茂樹君譯
フヲセット婦人著
經濟學　定價金
右ハ經濟學ニ入ルノ門戸